



ガバナー月信

UNITE
FOR
GOOD

Rotary International District 2550 tohigi

2025.10.1 発行

CONTENTS

ガバナーメッセージ **01**

米山月間に因んで **02**

米山記念奨学生紹介 **03**

クラブ紹介
[氏家RC] [小川馬頭RC]
[高根沢RC] **04**

RLIパート1実施報告 **05**

地区クラブ活性化
セミナー報告 **06**

新入会員/物故会員/お知らせ **07**

世界ポリオデーへ向けた
各クラブの活動内容 **08**

コーディネーターニュース **09**

2025年8月会員数報告 **10**

2024-2025年度
国際ロータリー第2550地区
地区会計収支報告書 **11**

Sequence

01 ガバナーメッセージ

世界ポリオデーに向けたクラブ活動のお願い

親愛なるクラブ会員の皆さまへ

10月24日は「ロータリー世界ポリオデー」です。

ロータリーは1985年に「ポリオプラス」を立ち上げ、いち早くポリオ根絶運動に取り組み始めました。その後、世界保健機関(WHO)、ユニセフ、米国CDC、ビル&メリンダ・ゲイツ財団などと協力し、国際的なパートナーシップ「GPEI(世界ポリオ根絶推進計画)」を推進してきました。その成果として、かつて年間35万人以上の子どもが苦しんでいたポリオは、現在わずか数力国での発症を残すまでに減少しました。これは、ロータリー会員が世界中でワクチン接種活動や資金援助を続けてきた賜物です。ロータリーは「世界からポリオをなくす」という歴史的使命の先頭に立ち続けています。

根絶に向けた最後の一步

しかし、最後の一步こそが最も困難です。

ひとりの子どもでも感染が続けば、再び世界的な流行が起こる可能性があります。完全な根絶は「人類史上2番目に撲滅される感染症」という偉大な成果であり、それは私たちの世代が必ず成し遂げるべき責務でもあります。

各クラブ会長へのお願い

当地区では、世界ポリオデーに合わせて、各グループがともに手を取り合い、ポリオ根絶活動を推進していただきたいと思います。具体的には以下の取り組みをお願いします。

- 1.街頭募金活動および啓発活動(グループ単位で実施)
- 2.例会でのポリオ根絶啓発プログラムの実施
- 3.ポリオプラス・ソサエティ(PPS)への入会推奨

結びに

会員の皆さまには、ぜひそれぞれの形でご協力をお願い申し上げます。

ロータリーの長い歴史の中で培われた努力を未来へとつなぎ、世界中の子どもたちが安心して成長できる社会を築くために、共に歩みを進めてまいりましょう。



R.I.D 2550 tohigi
Facebook QR



多くの仲間とともに、手を取り合って、インパクトのある行動を。

国際ロータリー第2550地区
ガバナー 二十二 修 (宇都宮北ロータリークラブ)

RI2550地区R米山記念奨学会

委員長 田島 良久(馬頭小川RC)



1. 米山記念奨学会の概要

米山記念奨学会は1952年に日本で最初に設立された東京ロータリークラブが、日本のロータリーの創設者とも言える米山梅吉翁の功績を記念して、そしてまたその意思を継いでこの奨学事業を始めることとなりました。

戦後の復興の道を歩み始めた日本にとって、二度と戦争の悲劇を繰り返さない為に、世界の国々との人物交流を深める必要性を感じていた時代背景の下、米山奨学事業は「留学生が平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築く」ことを目的に始められました。

その後“日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業”と評価されて、全国のロータリーに拡大していきました。そして1967年7月1日、当時の文部省の許可を得て、財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。

国内全クラブの合同事業として「ロータリー米山記念奨学委員会」が結成されてから財団設立まで10年の歳月を要しております。

米山記念奨学会の財源は、全国のロータリアンからの寄付支援金によって運営されていて、理事会は全34地区から選出された理事で構成されます。

次に、米山記念奨学事業の特長について申し上げます。

米山奨学事業は、日本のすべての地区が関わる「多地区合同奉仕活動」として、「ロータリー章典」の定めるすべての手続きをしています。

財団法人ロータリー米山記念奨学会の発行する印刷物等には、R I 理事会の定めにより、当財団が日本国内の全地区による合同プロジェクトである旨を付記したロータリーマークを使用しております。

*世話クラブ・カウンセラー制度

奨学生一人ひとりに地域のロータリークラブから世話クラブが選ばれ、さらにその会員の中からカウンセラーが付いて、奨学生との交流を深め、彼らの日本での生活が心豊かなものになるよう配慮しています。

奨学生はロータリアンとの交流を通じて、奉仕の精神に触れ、自らの精神を磨いて、人生観・職業観を深めます。

また、ロータリアンにとっても、金銭的な支援だけでは得られない感動と、事業への深い理解が生まれて、さらなる支援への意欲を盛り立てます。

*日本最大の民間国際奨学事業

年間の奨学生採用数は926人(2023年-2024年度)、国内最大の奨学事業です。(出身国別等は、豆辞典を参照願います)

2. 米山記念奨学会への寄付について

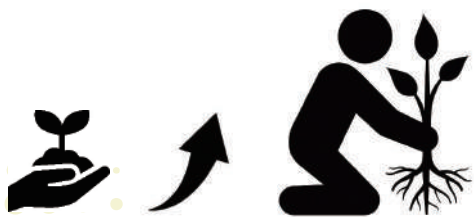
米山への寄付には「普通寄付金」と「特別寄付金」の2種類があります。

普通寄付金は各クラブで決まった一人分の金額を会員数分で送金いただく寄付です。

特別寄付金は、任意で頂くご寄付で、個人寄付・法人寄付・クラブ寄付の3種類があります。

2550地区の目標は、お一人19,000円以上でございますのでよろしくお願い申し上げます。

各地区の奨学生を何人採用出来るかは、地区の2年前の寄付金他にて決定されます。



10月の米山月間にはぜひ、米山記念奨学事業へのご理解とご支援をお願いいたします。

戦後、日本のロータリアンが「国際親善と世界平和に寄与したい」との思いでつくり育てた育成奨学事業は、今、皆さんの手の中にあります。米山記念奨学事業は、すぐに目に見えてくる事業ではなく息の長い事業である事をご理解頂き、奨学生へのご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

米山月間を迎えて

シェルパ ラクパチリ 世話クラブ:足利わたらせRC

米山奨学生として2年目を迎え、振り返ると多くの学びと出会いがありました。地域や社会への貢献として募金活動や米山ナイトの企画などに取り組みました。また、仲間と一緒に中国の料理を作るなど、楽しい交流の機会も多くありました。活動を通して、さまざまな価値観や考え方を持つ人々と出会い、視野が広がったことが大きな収穫です。足利わたらせクラブや学友会の皆様、さらに地区の方々にも常に温かく接していただき、深く感謝しています。カウンセラーの和田先生からも、学業や生活面で多くの助言をいただき、成長の支えとなりました。旅行を通じて日本各地を訪れ、日本文化や歴史に触れることで理解が深まったことも印象的です。これらの経験を通じて、人とのつながりの大切さや異文化理解の重要性を改めて感じ、今後の学びや行動に生かしていきたいと考えています。米山奨学制度を通じて得られた貴重な経験に感謝し、これからも社会に貢献できるよう努力を続けたいです。

ボブルホノフ アスリデインアクバルアグリ

BOBURKHONOV ASLIDDIN

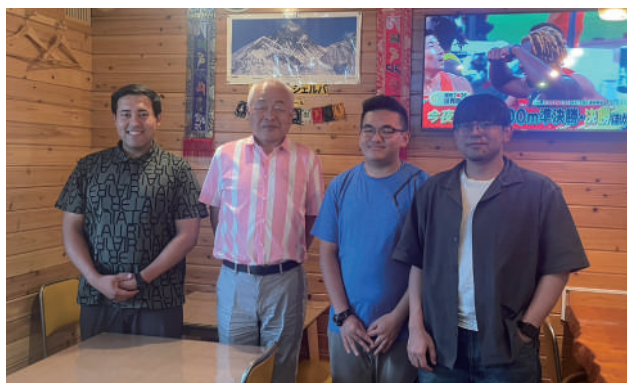
世話クラブ:栃木RC

私はウズベキスタンから日本にやってきた留学生です。米山記念奨学会の奨学生になってから、私の生活と心境は大きく変わりました。

まず、一番の変化は、人との出会いです。もともと人と話すことが好きでしたが、米山奨学会を通じて、さまざまな国からの留学生や、お世話をしてくださるロータリアンの方々との交流が生まれました。お世話クラブの皆さんとは、定期的に開かれる親睦会で一緒に食事を楽しんだり、地域の清掃活動やチャリティーイベントといったボランティア活動にも参加させていただいています。こうした活動を通して、日本語能力が向上しただけでなく、日本社会の一員として地域に貢献できる喜びも知りました。以前よりも積極的に人々と関われるようになったのです。

また、経済的な安定を得られたことも、大きな変化でした。奨学生になる前は、学生時代の生活費をまかなうために、学業と並行して2つのアルバイトを掛け持ちしていました。そのため、授業や研究に十分な時間を割くことが難しかったのです。しかし、奨学金をいただくことになり、アルバイトの時間を減らし、学業に専念できるようになりました。そのおかげで、授業の内容を深く理解し、卒業研究もスムーズに進め、学会などで研究の発表をすることができています。

米山奨学生になったことで、私は単に生活費の支援を受けただけでなく、多くの人々との温かい繋がりや、学びに集中できる環境を与えていただきました。この経験は、私にとってかけがえのない宝物です。

トップページへ
戻ります

Sequence
04 クラブ紹介

〔氏家ロータリークラブ〕

我が氏家ロータリークラブは、さくら市を中心に活動を行っており、一昨年に創立60周年記念式典を行った歴史あるクラブです。会員数は29名です。

2550地区内の他クラブからすると会員数は少なく映るかもしれませんが、少数精鋭で奉仕活動に取り組んでおります。

昨年度はさくら市の美しい自然を守るため、「河原の外来種を駆除しよう」のテーマのもと地域の自然環境保護の取り組みで外来種の駆除を行いました。この活動は、当時の福田ガバナー補佐の目にとまり、今年度のガバナー賞を受賞予定です。当クラブの社会奉仕活動でも多数の植樹を行った、さくら市氏家地区の桜の名所である「ゆうゆうパーク」での奉仕活動でした。さくら市の美しい自然を守るとても有意義な時間でした。

また、当時2550地区市田ガバナーの方針でもあったポリオ撲滅にも積極的に取り組んでできました。さくら市氏家のショッピングモールで募金活動を行いました。当クラブからも多数の会員が参加しておりますが、第2グループ内の他クラブからも参加者を集い、行いました。地道な募金活動ではありますが、このよ

うなことの積み重ねが氏家ロータリークラブの地域に対する認知度を高め、将来の会員増強につながると考えております。

今年度は、青少年奉仕活動の一環として、交換留学生受け入れに取り組んでおります。近年はcovid19等の影響で行えなかった事業ですが、地域の方々に協力をいただき、ホストファミリーとしての留学生受け入れをお願いしております。

このような活動をととして会員同士の友情を深めており、楽しく盛り上がったクラブ運営をさせていただいております。会員同士のつながりが深くなるにつれて、地域で行う奉仕活動がより地域の方々に浸透していくように感じております。

今後は地域に対して、今以上の奉仕活動ができるよう、多くの寄付が世界に届くよう、会員数を増やしていきたいです。

会員ひとりひとりの想いが、「より住みやすいまちづくり」や「平和な世界の創造」につながるクラブを目指します。



自然環境保護活動



募金活動の様子



青少年交換学生

氏家ロータリークラブ

2025-26年度会長 佐藤 健太郎

幹事 土屋 恭則

[馬頭小川ロータリークラブ]

私達、馬頭小川ロータリークラブは、清流 那珂川を中心とした自然豊かな那珂川町にて1972年より活動しております。現在の会員は15名と減少してきておりますが、少人数ならではの団結にて、50歳から89歳までの会員同士、日々楽しく和気あいあいと活動しています。

私達の毎年恒例の奉仕活動としては、道路清掃や河川清掃、さくら市の刑務所で行なわれるきつれがわ矯正展への出店、町主催福祉祭りへの出店、8月11日山の日に開催する「鮎のつかみ取り」などがあります。

特に「鮎のつかみ取り」は、途中、新型コロナウイルス蔓延による影響で断念した年もありましたが、年々、参加者が増加し規模が拡大しております。昨年は地元住民は勿論のこと、日本各地よりご参加をいただき、推定約2500人の来場となりました。

当ロータリークラブの周知や地元那珂川町へ貢献できる活動になっていると自負しているところです。

また国際交流においては、R I 第3462地区・台湾台中の太平扶輪社と1989年に姉妹クラブ締結以来、互いに往来をしながら交流を重ね、友情を深めております。

那珂川町においても、役所や社会福祉協議会・学校関係者との連携を密に行い、本当に必要とされるものの寄贈や「ロータリー賞」の表彰など毎年継続的に実施しております。

その他、過疎化により人口減少の進む那珂川町ですが、だからこそ出来る奉仕活動が他にもあるという考えのもと、各会員それぞれの目線から見た意見などが毎回の例会で活発に話し合われます。

最後になりますが、那珂川町には、県境のふくろうの神社・鷲子山上神社や広重美術館、「日本の美しい村100選」に選ばれる小砂地区などの観光場所あり、鮎や鰻の川魚、馬頭手作りハム、地元産のそば粉使用の手打ちそば、マンゴーフルーツなどの美味しい物もたくさんあります。

是非一度遊びにいらしてください。



鮎のつかみ取りを
毎年開催



馬頭小川ロータリークラブ

2025-26年度会長 高野 徹也

幹事 田所 伸張

トップページへ
戻ります



[高根沢ロータリークラブ]

当クラブは地元会社経営者の関係者会員10名で構成しております。

創立1988年6月22日創立37周年を迎えます。当クラブは少ない会員ですが出席率が高くまとまりの良いクラブとなっております。スポンサークラブである氏家ロータリークラブとの絆が強く、移動例会を行なっています。

*代表的な奉仕活動は「高根沢高校商業研究会への支援」発表のテーマは「ビジネスで未来をつくる～地域活性化を支える高校生のアイデア～」として、烏山線や高根沢町の抱える問題に対して、高校生のアイデアを提案する研究発表会で行っております。コロナウイルス以前は会員全員で参加して発表を総評し、支援金の贈呈をしていました。近年は会場の都合上会長・幹事・代表者3名が参加をしています。結果として地元高根沢町の野菜を使用した「高根沢ちゃんぽん」を企画提案し、地元の飲食店で提供して下野新聞に取りあげられました。今後とも高校生たちの活動を支援していきたいと思います。

*米山奨学生を毎年受け入れております。主な国は東南アジア・中国などでその国の文化など卓話などで学ぶことができます。親睦例会など通じて楽しい例会が出来ています。昨年度は2013年～2014年米山奨学生鄭 晴美(テイさん)とカウンセラーだった齋藤友紀雄会員が連絡を取り、テイさん・お子様・お母様(中国から)3人で例会に参加をしてくださり、近況報告をしていただいたり、思い出話をして楽しい例会が出来ました。



*1年交換留学生2017年8月～2018年7月 エリズ・女性・16歳・フランス・高根沢高校(ホストファミリー・齋藤幸成会員)(カンセラー・澤畑宏之会員)を受け入れ高校生と親交を重ねることで、互いに経験できないことを学びました。私たちロータリアンも、留学生や奨学生たちと積極的に関わることで、視野が広がっていきます。この事業がクラブ会員一人一人の心に残る活動となるように、今後とも楽しみながら取り組んで行こうと思います。



*ポリオデー ポリオ根絶活動は第2グループ(氏家RC・高根沢RC・烏山RC・馬頭小川RC)4クラブ合同で、ザ・ビッグエクストラさくら店において店内募金活動を行いました。その時ポリオって何?と聞かれました。ポリオの存在を知られていなかったことに驚きました。これからよりよく理解をしてもらうためにもポリオ根絶した世界が現実するまで、これらも活動を続けて行きます。

高根沢ロータリークラブ

2025-26年度会長 荒井 一夫

幹事 鈴木 章

ポリオ根絶 募金活動

Sequence

5

RLI パート 1 実施報告

2025年8月24日にニューイタヤにて、ロータリー・リーダーシップ研究会(RLI)パートⅠの研修会が行われ、今回2550地区のメンバー22名に参加していただきました。RLIは基本的にパートⅠからパートⅢまであり、今年度、第一回目としてパートⅠを行いました。今後、パートⅡを11月30日に行い、パートⅢを来年になってから開催する予定であります。そして、パートⅠからパートⅢまでの卒業生を対象に卒後コースまで、今年度中に行えればいいかと思っております。



今回のパートⅠは、50分で一つのテーマをディスカッションしていただき、一日で6つのテーマを学習していただくので、一日6時間授業となります。皆さん、学生の時には、一日で6時間受けていたかもしれませんが、卒業してからは、なかなか、丸一日かけて6時間授業を受けることはないのではと思います。そこでも、皆さん頑張って活発な意見交換ができていました。

本来RLIは、研修を行うことにより知識を得、また、他クラブの人たちとディスカッションを行うことにより、他のクラブでは、どのようなことを行っているのかを参考にでき、結果として各自が自クラブに戻り、その得た知識を使ってもらい、クラブを活性化することが目的となっております。

本日、まず最初のパートⅠを行ったわけですが、是非、皆様には、パートⅠからパートⅢまで受講終了し、卒後コースまで、研修を受けていただければ、ありがたいと思っております。RLIのディスカッションの方法としましては、講義形式ではなく、ファシリテーター(進行役)が各人に質問を投げかけ、それを答える形式で行います。そこでは、他のクラブの方々がおりますので、各クラブの違った運営の仕方を聞き、新しい発見をすることは、とても良い参考になると思いますし、一日受講すれば、たくさんのクラブの内容を聞くことになるわけですから、とても有意義な研修になっていると思います。今回も、皆様が、他クラブの内容を聞いて有意義な情報を自クラブに持ち帰りクラブの活性化ができることと信じています。



今回、参加していただいた方におかれましては、一日研修を受けていただきまして、ありがとうございました。また、是非とも、まだ受講されていないメンバーの皆様には、RLI研修に積極的に参加していただくことをお願いし、同時に我々と一緒にファシリテーター(進行役)にも興味を持っていただけるとありがたいです。よろしくお願いいたします。

RLI委員会ファシリテーター委員長

福 富 正 浩 (栃木RC)

[トップページへ
戻ります](#)

Sequence

6 地区クラブ活性化セミナー報告

地区クラブ活性化セミナーについて

地区クラブ奉仕委員会

委員長 橋本 正行(宇都宮陽東RC)

8月23日に地区の活性化セミナーが開催されました。

今回のセミナーは、2部構成で、まずクラブ運営の基礎となります「会員増強」に関しまして、第1地域RMC(ロータリー会員増強コーディネーター)の田中久夫様(高崎ロータリークラブ)に講演を頂きました。田中先生は、市田年度のPETSでもお話を頂いており、話の内容及び教授ならではの人を引き付ける話術で多くのロータリアンを魅了してきました。内容は、地区会員組織委員会のレポートをご覧ください。

次に、規定審議会の講演ですが、2026年度—28年度国際ロータリーの理事になられる規定審議会代表議員の中谷研一氏(足利東ロータリークラブ)に講演を頂きました。規定審議会の内容は最重要ですが、各クラブには重要度が薄くなりがちです。そのためにも「ロータリーの友6月号」にも掲載され、そして今回の講演で深くご理解を深めてください。内容は、地区のロータリー情報のレポートをご覧ください。また、二つの講演内容はホームページにも掲載されております。

さて今回は、活性化セミナー後に懇談会を行いました。この懇談会は任意で、出席者はクラブ会長と地区クラブ奉仕委員会の会員のみでした。テーブルリーダーに、田中久夫会員増強ファシリテーター、二十二修ガバナー、鈴木宏地区ファシリテーターの3人をお願いをし、時間でテーブルリーダーに異動してもらい、各テーブルで会員増強も含め、クラブ運営について学びをさせていただきました。シャイな栃木県人には、少人数の話の場は、適していると思いますが。

今回のセミナーが素晴らしい学びであったで終わることなく、魅力あるクラブ作りを会長を始め会員の皆様方に実践していただければ、このセミナー開催の意義があったと思います。年度末には、各クラブが会員増強においてクラブ目標を達成できますよう、地区クラブ奉仕委員会としてもご支援いたします。

多くの会員の出席、誠にありがとうございました。



地区クラブ活性化セミナー 「クラブを活性化するために」

地区会員組織委員会

委員 山口 雄子 (宇都宮陽東RC)

猛暑の中集まった百人以上のロータリアン。想像以上に多い参加者の理由は、参加した皆さんのクラブに対する思いの表れ、そして講演者である田中久夫先生への期待感からではないかと感じました。事実、田中先生の講演は多くの気づきと「クラブを活性化する為に」自分たちが何をすればいいのかわかる、貴重な時間となりました。



田中先生は現在、高崎ロータリークラブ所属のロータリアンです。著書『ロータリークラブに入ろう!』ではロータリークラブの魅力を多くの人に伝え、また多くの会員を入会に導いた会員増強のスペシャリストでもあります。



田中久夫先生

講演ではまず、ロータリーでよく聞く『DE I (Diversity: 多様性、Equity: 公平性、Inclusion: 包括性)』の精神を、花を育てる環境『Inclusion: 土壌 (文化、居心地)、Diversity: 種 (新人の多様性)、Equity: 注がれる水 (現会員の備え)』に置き換え、クラブ全体の意識改革に必要な考え方を構造的に、わかりやすい言葉で説明いただきました。ところどころに先人たちの教えや、田中先生の会員増強の際の興味深いエピソードを踏まえ、聞いている私たちに知識を得る楽しさを感じさせ、穏やかで明瞭な話ぶりに惹きつけられました。

「聞く人に共感性の高い言葉で話をする」「知ること、好きになること、楽しむこと」がロータリークラブを活性化していく秘訣であるという先生の言葉は、その場で聞いている私たちが実証されているようでした。

聞いている皆さんもきっと、これはロータリークラブだけのことではなく、会社や自分の属している社会の中でも特に重要なことだと感じたと思います。たった1時間の講演でしたが、とても充実した時間となりました。この時間の前向きな思いが結果につながるよう、まずは自分自身の行動や考え方の改善を心がけていきたいと思います。

作新学院大学で教鞭をとっていた経験のある田中先生は、栃木への思いも強く、今回セミナーで使用した資料は全て、2550地区のHPから閲覧できるよう、大きなお土産を残していただきました。「クラブの活性化について」「会員増強について」「退会防止について」多くのクラブが抱える問題の、解決のヒントとなるような言葉が散りばめられた貴重な資料です。詳細は、こちらからダウンロードしてください。

<https://www.rid2550.com/document/seminar>



トップページへ
戻ります



地区クラブ活性化セミナー 「2025年審議会報告」

地区ロータリー情報委員会

委員長 宇賀神 康明 (鹿沼RC)

2025年8月23日(土)ベルヴィ宇都宮で国際ロータリー第2550地区 地区クラブ活性化セミナーに於きまして「ロータリーと審議会」と題しまして地区規定審議会代表議員 中谷研一パストガバナーよりご講演を頂きました。

ロータリーの議会、審議会の説明、規定審議会の歴史から始まり、採択議案、採択決議・決議案のご説明、審議会の周期、審議会を構成する議員の説明、方策を立てる事の大切さを話され、「あなたにとって大切なことは?」「ロータリーにとって重要なことは?」などを問われました。

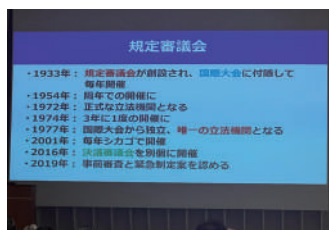
採択された制定案は、その変更は審議会後の7月1日に有効となります。採択された変更を組織規程文章に反映、組織規程文章の改訂版を発行し「手続き要覧」を改訂するなど丁寧で具体的なお説明を頂きました。

最後に「世界は絶えず変化しています。そして私たちは世界と共に変化する心構えがなければなりません。ロータリー物語は何度も書き替えられなければならないでしょう」と締めくくりました。詳細は、こちらからダウンロードしてください。

<https://www.rid2550.com/document/seminar>



中谷研一パストガバナー



Sequence

07 新入会員 / 物故会員 / お知らせ

【新入会員紹介】



足利わたらせ RC

(株) コメックス

小又 竜志郎

(おまた りゅうしろう) 2025.7.3入会

よろしくおねがいします。



佐野 RC

合同会社 大金
代表社員

大金 純一

(おおがね じゅんいち) 2025.8.4入会

諸先輩方からご指導を賜り、皆様との絆を
深め地域社会に貢献したいと思います。

佐野 RC

農業

蘆原 政夫

(はぎわら まさお) 2025.8.18入会

人、自然環境を守るために、誠実、実行力、
思いやる心で努めてまいります。

栃木南 RC

大樹生命保険株式会社
栃木営業部 営業部長

井口 敬登

(いぐち たかと) 2025.8.1入会

よろしくお願いいたします。

物故会員

ご冥福をお祈り致します



小山北 RC

高平 丈也 享年55歳

たかひら たけや

生年月日 1970年8月31日生

物故年月日 2025年8月6日

入会年月日 2020年1月1日

□ロータリー歴

2021～2022年度 青少年奉仕委員長

2022～2023年度 ニコニコ・親睦活動委員長

2023～2024年度 SAA・プログラム委員長

2025～2026年度 職業奉仕委員長

□寄付歴

PHF

地区内・外 主要行事予定

▶ 地区ホームページへ

送金カレンダー

▶ 地区ホームページへ

クラブ定例報告カレンダー

▶ 地区ホームページへ

例会場/事務所一覧

▶ 地区ホームページへ

ガバナー公式訪問日程表～お願い～

▶ 地区ホームページへ

地区組織図

▶ 地区ホームページへ

(公財)ロータリー米山記念奨学会ニュース

▶ 「ハイライトよねやま」へ

ロータリー文庫

▶ ロータリー文庫へ



文庫通信 393号: ポリオ

「記事抜粋『私の履歴書(第18回) 国際政治(ポリオ)』尾島茂(結核予防会理事) / 日経新聞 2025.3.29/1P
 「ポリオ根絶への道—これまで、これから—」尾島茂(結核予防会理事) / (D2760 地区研修協議会) / 2025/8P
 「ポリオとロータリーと私」薩摩康博 / (D2580 地区大会) / 2022/8P
 「ロータリー活動から学ばせろ」松本祐二 / (D2580 地区大会) / 2022/14P
 「バキスタンでの予防接種活動(「世界でよいことをしよう」財団ワークショップより)」
 高柳育行 / (D2510 地区大会) / 2023/3P
 「エンドポリオサイクリングチャレンジについて」宮崎陽市郎 / (D2580 地区大会) / 2023/4P
 「ロータリー研究資料 第4セッション(世界ポリオイベント事例)」ロータリー研究会/2024/64P

※参考訳はR非公式であり、私的訳またはAI翻訳のため正確ではないこともございます。あくまで参考として
 「公式英文書」ご理解の一助としてご利用ください。なお、該当PDFファイルの末尾(-2.pdf)が参考訳です。

PDFの閲覧には「ユーザー名」「パスワード」が必要です。ご不明の場合は、各事務所またはロータリー文庫にお問い合わせください。
 〒105-0013 東京都港区浜松町2丁目7番16号 第3小森ビル別館6階
 TEL:03(3433)6456 FAX:03(3459)7506

Sequence

08

世界ポリオデーへ向けた各クラブの活動内容

R.I.D2550 グループ別ポリオキャンペーン活動内容

◆ 第3A・3Bグループ

10/26(日)

詳細未定

◆ 第6グループ

10/19(日) 栃木RC

栃木西RC

栃木南RC

11/8(土) 壬生RC

8/9(土) 岩舟RC(実施済)

10/19日(日) 栃木RC、栃木西RC、栃木南RCの合同活動
蔵の街ふるさとまつりに合わせて、栃木市山車会館広場にて募金活動
11/8日(土) 壬生RC
壬生町産業まつりに合わせて壬生町役場前広場にて募金活動を行い、
ネーム入リエコバックを配布
8/9日(土) 岩舟RC 実施済
サマーフェスタinいわふね2025会場にて綿菓子・ポップコーン販売
売上金全額の寄付

◆ 第7グループ

10/19(日)

詳細未定

◆ 第9グループ

10/26(日)

10時30分～11時30分

場 所:道の駅 どまんなか たぬま
参加者:第9グループ4クラブ 各クラブ10名参加
さくらインターアクトクラブ 20名参加
活 動:募金活動 ポリオ周知活動
募金活動中はポリオのビデオを放映

※9月25日までに確定している内容です





コーディネーター NEWS

2025年10月号 No.1

発行：Region 1, 2 & 3
RMC, RPIC, RRFC, E/MGA, EPNC
行動計画推進リーダー
国際大会推進チーム

第1地域 台北国際大会推進チーム 岡村 睦美（川口 RC）

2026 年台北国際大会は 6 月 13 日～17 日に台北ドームにて開催されます。
日本チーム推進委員長は出村知佳子さん(第 2510 地区 札幌北ロータリークラブ)です。
「RI 理事主催親善朝食会」は 2026 年 6 月 14 日 7:00AM より圓山大飯店 12 階で執り
行われます。私たち推進委員は一万人の登録参加を目指していきます。
台湾は日本から近く、多くのクラブが友好、姉妹関係を結んでおり馴染みの深い国です。
台湾の次に登録者数が多いことを目指しています。

ロータリー章典に記載がございます通り、国際ロータリー年次大会の主な目的は、国際レ
ベルにおいて、全ロータリアンを刺激、鼓舞、激励し、かつ情報を与えること、ならびに組織の
戦略目標を進展させるためのフォーラムとして機能することです。この年次大会は国際ロー
タリーの年次業務会合にもあたります。

国際大会の登録を許可されたものには 1.ロータリアン 2.ローターアクター 3.インターアクター 4.青少年交換学生
5.財団奨学生 6.ロータリアンではないロータリー学友 7.ロータリークラブ、各地区の職員 8.故人となったロータリア
ンのパートナーです。

国際大会への登録を希望するこの他の人は、資格のある大会登録者に同行する有料のゲストとして登録することができ
ます。全ての国際大会登録者は、理事会が定めた該当する大会登録料を支払うものとします。故人となったロータリー
シニアリーダーのパートナーがロータリアンではない場合は、ロータリアンのゲストとしてではなく、独自に国際大会に登
録することが認められています。

国際大会では、ロータリーについて広報する重要な機会が与えられています。また、出席しているロータリー会員にク
ラブや地区の広報活動に関する貴重な指針と意欲を提供します。

国際大会中の全ての会議はロータリーに関連した話題について話されます。主な講演者、ロータリー会員ではない講演
者の話には、話題をロータリーに関連づけるようなものになっています。

本会議におけるプレゼンテーションは、RI 戦略計画と一貫性のあるものとなっています。

何とんでも国際大会に参加すると自分が国際ロータリーの一員であるということを自覚し、大勢の多国籍の人達との
友情を育む機会として貴重な体験ができます。

まさに国際ロータリーの一員であるという醍醐味を実感し、国際大会参加者は退会しないという過去の実績もあります。

国際大会に参加することによってしか味わえない貴重な時間を皆様と共に過ごせることを願っています。

御家族、友人、ロータリー会員ではない方々にも、ぜひお声掛けいただきたく思います。

日本から一万人の笑顔で会場を埋め尽くしましょう！



トップページへ
戻ります



コーディネーター
NEWS

2025年10月号 No.2

発行：Region 1, 2 & 3
RMC, RPIC, RRFC, E/MGA, EPNC
行動計画推進リーダー
国際大会推進チーム

ポリオ根絶に向けた草の根の運動

第2地域 ポリオ根絶コーディネーター(EPNC) 柳生 好春（野々市 RC）

先ごろ、2024-25 年度「ポリオプラスへのクラブ参加率」が地区単位で明らかになりました。

第一地域平均 86, 09%、第二地域 89, 78%、第三地域 83.55%と世界 41 地域中のトップスリーを占めました。100%地区も 6 地区あり、2540、2570、2820、2760、2780、2660 の各地区です。

34 地区平均は 86, 27%であり、世界の平均は 61, 9%となっています。

特筆すべきは、2021-22 年度の 34 地区平均 72, 5%に対し、この 3 年間で 13, 77 ポイントアップしたことです。ポリオプラスに対する理解と寄付が着実に進んでいることが分かります。日本のロータリーの素晴らしさの 1 つです。

また、DDF20%以上寄付地区は第一地域では 2510、2540、2550、2830、2840 の 5地区、第二地域は 2580、2600、2610、2750 の4地区、第三地域は 2640、2650、2670、2680、2690、2710、2730、2740 の 8 地区で世界 41 地域中、第 4 位の高額寄付地域となっています。

1988 年に GPEI ができた当時のポリオは 125 か国、症例数は 35 万人にも上りました。

現在はその当時から 99, 9%減少し、もう一步のところまでできています。そこで 2016 年にアメリカのオレゴン州から始まった「ポリオプラス・ソサエティ」(PPS)の認証制度が注目されます。毎年 100 ドルを「ポリオプラス基金」に寄付することを誓約することによって「ポリオプラス・ソサエティ」のメンバーとなるものです。メンバーになると登録証とピンバッジが贈呈されます。

日本ではいま、1 人あたり 30 ドルをポリオプラスの寄付目標額としています。その金額に 70 ドルを上乗せしてもらえばよいのです。

R 財団情報に「毎年、財団への寄付総額のうち 500 万～600 万ドルは、25 ドル～99 ドルの寄付によるものである。すべての会員が毎年寄付すれば、人々の人生を変える持続可能なプロジェクトが可能となる。金額の大小ではなく、すべての寄付が大きなインパクトをもたらしている」があります。このような考えに基づき、PPS を推進することこそポリオ根絶の草の根の運動と言えるのではないのでしょうか。

※GPEIとは「世界ポリオ根絶推進活動」で、RI(国際ロータリー)、WHO、UNICEF(国連児童基金)、CDC(米国疾病対策センター)、ゲイツ財団、GAVI(ワクチンアライアンス)の 6 団体がポリオ根絶に向けて連携している





コーディネーター NEWS

2025年10月号 No.3

発行：Region 1, 2 & 3
RMC, RPIC, RRFC, E/MGA, EPNC
行動計画推進リーダー
国際大会推進チーム

第3地域 ロータリー財団地域コーディネーター 堀川 貴史（熊本南 RC）

ロータリー財団の年次基金-シェアへの寄付が、3年間投資された後に地区財団活動資金(DDF)と国際財団活動資金(WF)に配分されます(5%は運営費)。これをシェアシステムといいます。2025-26年度から、各年度末に5年を超えて未使用であるDDFは、地区の裁量で、ポリオプラス、ロータリー平和センター、恒久基金、災害救援基金、WFのいずれかに再配分されます。地区が2026年6月30日までに資金の配分先をロータリー財団に通知しない場合、未使用のDDFは2026年7月1日にWFに充当されます。これは毎年多額のDDFが使われずに繰り越されることを懸念して2021年に制定されました。DDFを使用して財団を支援する方法について、各地区でご検討ください。



ロータリー財団の使命は、ロータリー会員が、人びとの健康状態を改善し、質の高い教育を提供し、環境保護に取り組み、貧困をなくすことを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることです。その象徴がまさにポリオ根絶です。ロータリーでは1985年に「ポリオプラス」を開始し、1988年にWHOとともに「世界ポリオ根絶推進活動」を立ち上げ、活動してきました。現在はパキスタンとアフガニスタンを残すのみです。世界で最後にポリオが残っている地域が情勢不安定な地域であるのは偶然ではなく、疾病と戦争は古くから結びついているのだと、テドロス・アダノム WHO 事務局長は昨年度の国際大会で語りました。

10月24日は世界ポリオデー。私には夢があります。それは「世界ポリオデーを、バレンタインデーのような市民行事に育てる」というものです。2月14日にチョコレートや花束を贈り合う姿が世界の街中でみられるように、10月24日には赤いTシャツを着た人々が街にあふれ、ポリオ根絶と世界平和が自然に語られる、そんな光景を思い描いています。

夢物語に聞こえるかもしれませんが、その第一歩は、私たち自身が踏み出すことから始まります。職場のスタッフと一緒に赤いTシャツを着る、「世界ポリオデー特別例会」を企画して赤いTシャツで揃える、インターアクトやローターアクトと連携して地域でアピールする。小さな行動が社会を巻き込み、世界を変える大きなうねりに成長します。

それは単なるパフォーマンスではなく、社会に強烈なインパクトを与え、ロータリーの公共イメージを高め、寄付や協力の輪を大きく広げていきます。

制度の理解と寄付の活用が“内なる力”ならば、赤いTシャツは“外への発信力”。二つの力が世界を変える力になります。

ロータリーは「夢を現実にする組織」です。私たちが「ポリオをなくした世代」として歴史に名を刻む日が近づいています。

近い未来の10月24日、街中が赤いTシャツで埋め尽くされ、子どもたちの笑顔があふれる光景を想像してください。その時、ある子どもが言うのです。

「このTシャツ、この街のロータリークラブから始まったんだって！」

トップページへ
戻ります



Sequence

10 2025年8月会員数報告

MyRotaryより（アルファベット順）

クラブ名	2025年7月1日 会員数	2025年7月1日 女性会員数	2025年8月31日 会員数
足利	24	2	24
足利東	40	4	40
足利わたらせ	27	0	28
足利西	12	0	12
馬頭小川	15	0	15
今市	40	0	40
今市きぬ	24	0	26
岩舟	8	0	8
鹿沼	56	1	56
鹿沼東	43	7	45
烏山	13	2	13
黒磯	32	3	34
葛生	38	0	38
益子	29	3	29
壬生	15	1	15
真岡	45	0	44
真岡西	39	5	39
日光	17	4	17
西那須野	43	3	43
大田原	18	2	19
大田原中央	16	1	16
小山	21	1	21
小山中央	24	2	24
小山東	22	0	22
小山北	26	0	25
小山南	16	2	16
佐野	46	0	48
佐野東	21	2	21
下野上三川	24	3	24
高根沢	10	1	10
田沼	44	0	44
栃木	43	6	44
栃木南	35	9	38
栃木西	28	0	29
氏家	27	3	29
宇都宮	95	4	98
宇都宮90	39	5	39
宇都宮東	96	0	97
宇都宮北	43	0	43
宇都宮さつき	22	5	22
宇都宮南	56	7	57
宇都宮西	65	0	65
宇都宮陽北	63	7	63
宇都宮陽南	18	5	19
宇都宮陽東	48	10	48
45RC	1526	110	1547
<RAC>			
足利東	4		4
足利大学	14		14
蔵の街とちぎ	5		5
作新学院大学	4		4
宇都宮東	5		5
5RAC	32		32

留意事項：データの更新は、RIが受領してからレポートに反映されるまで6～7日程かかる場合があります。

Sequence

11

2024-2025年度 国際ロータリー第2550地区 地区会計収支報告書

I 地区資金

収入の部

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異額	備 考
地区資金受入収入	14,850,000	14,105,250	744,750	前期 4,500円×1,533名 新入会員 2,250円×43名 後期 4,500円×1,565名 新入会員 2,250円×30名 預金利息
雑収入	500	31,598	△31,098	
当年度収入合計	14,850,500	14,136,848	713,652	
前年度繰越金	18,015,253	23,470,216	△5,454,963	
合 計	32,865,753	37,607,064	△4,741,311	

支出の部

科 目	予算額	決算額	差異額	備 考
<委員会活動費>				
地区研修委員会	20,000	0	20,000	会議費・研修会費
公共イメージ委員会	20,000	0	20,000	〃
クラブ奉仕委員会	60,000	39,560	20,440	〃
職業奉仕委員会	20,000	26,080	△6,080	〃
社会奉仕委員会	20,000	20,000	0	〃
国際奉仕委員会	20,000	0	20,000	〃
青少年奉仕委員会	80,000	58,000	22,000	〃
ロータリー財団委員会	230,000	184,372	45,628	〃
米山記念奨学会委員会	90,000	90,000	0	〃
ローターアクト委員会	10,000	0	10,000	〃
ロータリーの友委員	10,000	0	10,000	〃
国際大会参加推進委員会	10,000	0	10,000	〃
地区運営委員会	240,000	248,212	△8,212	〃
諮問委員会	345,000	357,637	△12,637	〃
指名委員会	10,000	10,000	0	〃
地区会合	500,000	130,000	370,000	〃
D X推進委員会活動費	20,000	0	20,000	〃
ガバナー補佐会議費	100,000	100,000	0	〃
R L I委員会	440,000	440,000	0	会場費、資料代
戦略計画委員会	20,000	0	20,000	会議費・研修会費
小 計	2,265,000	1,703,861	561,139	
<補 助 金>				
地区大会	750,000	750,000	0	
次期地区研修・協議会	1,200,000	1,200,000	0	
次期地区委員研修会	700,000	700,000	0	
次期会長研修会	1,000,000	1,000,000	0	
I M	500,000	500,000	0	50,000×10グループ
会長・幹事会	100,000	100,000	0	
ガバナーエレクト国際協議会旅費	2,200,000	2,200,000	0	
次期ガバナー補佐研修費	220,000	250,500	△30,500	
ガバナー補佐活動費	1,200,000	1,175,000	25,000	25,000円×47RC
親善活動費	400,000	400,000	0	野球大会・ゴルフ選手権
拡大・増強活動費	400,000	0	400,000	
広報活動費	150,000	200,000	△50,000	
★ローターアクト奉仕基金	400,000	400,000	0	
小 計	9,220,000	8,875,500	344,500	
<納付金その他>				
ロータリー文庫運営費	330,000	309,900	20,100	前期100円×1,533名,後期100円×1,566名
全国ガバナー会費	354,750	333,390	21,360	前期100円×1,533名,後期115円×1,566名
R I J Y E M維持協力金 注①	330,000	309,900	20,100	前期100円×1,533名,後期100円×1,566名
青少年賠償保険料	130,000	113,120	16,880	I A、R A、R Y L A賠償責任保険料 (2025年分)
ロータリー研究会分担金	750,000	752,000	△2,000	
旅費	500,000	410,000	90,000	
登録料	600,000	708,000	△108,000	
監査費	30,000	30,000	0	
年次報告書作成費	200,000	180,000	20,000	
雑費	130,750	40,000	90,750	R L I 日本支部負担金含む (2024年分 30,000)
小 計	3,355,500	3,186,310	169,190	
<予 備 費>				
当年度支出合計	14,850,500	13,765,671	1,084,829	
次年度繰越金	18,015,253	23,841,393	△5,826,140	
合 計	32,865,753	37,607,064	△4,741,311	

注①R I J Y E Mとは、特定非営利法人国際ロータリー日本青少年交換委員会。

★新設科目

収入の部

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異額	備 考
ガバナー月信購読料	1,980,000	1,880,700	99,300	600円×3,098名 (注②) 300円×73名
地区大会分担金	16,500,000	15,672,500	827,500	5,000円×3,098名 2,500円×73名
ガバナー事務所協力金	9,735,000	9,246,775	488,225	2,950円×3,098名 1,475円×73名
ガバナーエレクト協力金	825,000	783,625	41,375	250円×3,098名 125円×73名
青少年奉仕基金	9,240,000	8,776,600	463,400	2,800円×3,098名 1,400円×73名
ロータリー財団学友基金	165,000	156,725	8,275	50円×3,098名 25円×73名
2025年規定審議会協力金(注③)	990,000	940,350	49,650	300円×3,098名 150円×73名
当年度収入合計	39,435,000	37,457,275	1,977,725	11,950円×3,098名 5,975円×73名
前年度繰越金	10,731,816	20,252,401	△9,520,585	
合 計	50,166,816	57,709,676	△7,542,860	

(注②) 前期1,533名、後期1,565名、前期新入会員43名、後期新入会員30名

支出の部

科 目	予算額	決算額	差異額	備 考
ガバナー月信購読料	1,980,000	1,706,100	273,900	
地区大会分担金	16,500,000	15,230,661	1,269,339	
ガバナー事務所協力金	9,735,000	9,413,109	321,891	
ガバナーエレクト協力金	825,000	780,640	44,360	
青少年奉仕基金(注③)	9,240,000	8,072,265	1,167,735	青少年交換、IA、RYLA
ロータリー財団学友基金	165,000	40,000	125,000	
2025年規定審議会協力金(注③)	990,000	990,000	0	
当年度支出合計	39,435,000	36,232,775	3,202,225	
次年度繰越金	10,731,816	21,476,901	△10,745,085	
合 計	50,166,816	57,709,676	△7,542,860	

注③: 青少年奉仕基金の中には、青少年交換受入助成金が含まれます。
クラブへの1年交換助成金 (5名×800,000円=4,000,000円)

Ⅲ 危機管理等特定基金

(危機管理等特定基金とは、青少年交換・VIT等に於ける不慮の事故及び震災・地区事務所移設・地区資金が不足した場合の基金。)

収入の部

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異額	備 考
前年度繰越金	40,019,294	40,019,633	△339	
基金・協力金からの繰入	0	0	0	
雑収入	500	3,271	△2,771	
合 計	40,019,794	40,022,904	△3,110	

支出の部

科 目	予算額	決算額	差異額	備 考
次年度繰越金	40,019,794	40,022,904	△3,110	
合 計	40,019,794	40,022,904	△3,110	

Ⅳ 地区資金、基金・協力金及び危機管理等特定基金 合計

(単位:円)

科 目	前年度繰越金	当年度収入合計	当年度支出合計	次年度繰越金
地 区 資 金	23,470,216	14,136,848	13,765,671	23,841,393
基 金・協力金	20,252,401	37,457,275	36,232,775	21,476,901
危機管理等特定基金	40,019,633	3,271	0	40,022,904
合 計	83,742,250	51,597,394	49,998,446	85,341,198

Ⅴ 財産目録

(2025.6.30)

(単位:円)

科 目	金額
普通預金 栃木銀行 (No.1194326)	65,318,294
定期預金 栃木銀行 (No.1076200)	10,010,927
定期預金 足利銀行 (No.5643168)	10,011,977
合 計	85,341,198

以上の通り2024・2025年度の会計報告を致します。

2025.8.18

国際ロータリー第2550地区

ガバナー 市田 登

地区幹事 金子 昭彦

地区会計長 黒本 敏夫

監 査 報 告 書

私は、2025年8月18日 宇都宮市宿郷3-21-15 ベルヴィ宇都宮1F ガバナー事務所内において、国際ロータリー第2550地区2024-25年度の地区会計収支報告書について、同年度ガバナー 市田 登、地区幹事 金子昭彦、地区会計長 黒本敏夫、立ち会いのもと監査を実施致しました。

監査の結果、地区会計収支報告書は何れも適正且つ正確であることを認めましたので、ここにご報告致します。

2025年8月18日
2024・25年度 国際ロータリー第2550地区
監 査 人

増山 誠

トップページへ
戻ります